

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1672号 2003年02月17日(月)

《 remained deeply divided 》

政治的に重い一週間を過ぎても、「対立」と「展開の不透明」の図式が晴れない週末でした。予想されたこととはいえ、14日に公表されたブリクス国連査察委員会委員長の報告は、どちらの陣営も主張の根拠に援用出来る"玉虫色"(mixed)でした。ドイツ、フランス、中国、ロシアは「査察は成果を挙げている」といい、一方アメリカ、イギリスは「ミサイルの飛距離などでイラクが違反をしているのは深刻な問題」と主張する。

14日の報告が終わった段階での各国の主張は以下の通りです。国連安保理15カ国中、アメリカの立場に賛成しているのがイギリス、スペインの2カ国だけで、12対3の圧倒的不利にあることにたじろぎながらも、最後は「新たな決議なしでも対イラク攻撃は可能」という立場。ニューヨーク・タイムズが報じているように3月の中旬から下旬になろうとも、対イラク攻撃を開始する意向のようです。むろん、それまでにフランスなどを説得できれば、それにこしたことはない。しかし最後は独自でも動く、と。ホワイトハウスのフライシャー報道官は以下のように述べている。

「The White House spokesman also said that the U.S. is willing to move without a new resolution "There is no question that the president has said either the United Nations will disarm Saddam Hussein or a coalition of the willing will take action," he said.

「a coalition of the willing」というのは、「その意志あるものの連合」ということです。今のところ、イギリス、オーストラリアなど、とても両手に満たない国の連合となる。それでもやると。

対してフランスは、「3月14日にもう一度査察委員会に報告させよう」という主張を展開している。筆者にはむしろ「次の報告」の期限をフランスが区切ってきたことの方が驚きだが、それでもアメリカは「3月の中旬に査察報告をもう一度提出させるというフランスの主張には賛成できない」と明言している。これは、3月14日の報告書提出に賛成してしまうとそれまでの軍事オプションが封じられてしまう、という制約があるからだと思われる。つまり、可能性としてそれまでに攻撃に着手することもあるということだ。

ドイツや中国、ロシアは現時点では今後の安保理のスケジュールや査察のあり方につい

て明言を避けている。プリクス報告の中味を見ると、ミサイル（Al Samound 2）の飛行距離（決められた150キロを40キロ超えている）に関する違反認定以外にアメリカに一つ有利な点があるとしたら、

「The declaration submitted by Iraq on the 7th of December last year, despite its large volume, missed the opportunity to provide the fresh material and evidence needed to respond to the open questions. This is perhaps the most important problem we are facing. Although I can understand that it may not be easy for Iraq in all cases to provide the evidence needed, it is not the task of the inspectors to find it. Iraq itself must squarely tackle this task and avoid belittling the questions.」

つまり「必要な証拠を見つけるのは査察委員会の仕事ではなく、それを提供するのはいラクの仕事」という点。「査察で、イラクが違反をしている決定的証拠が見つかっていない」という査察継続派の主張を否定している点が重要である。

《 anti-war demonstration worldwide 》

月曜早朝現在では、次の安保理開催がいつになるかも決まっていない。イギリスは2月28日を主張していると言われるが、これも開催となるかどうか不明である。この週末には世界中で対イラク攻撃反対デモが繰り広げられた。表面的には、アメリカ政府はこのデモ故に自国の作戦を変える兆候を見せてはいない。

しかし、デモの規模の広範囲さ、それに参加者の多さには「新たな広報戦略の必要性」を認識しているに違いない。パウエル国務長官は「イラクとアルカイダを結ぶ新たな証拠を持っているとも言っている。そうしたものを出示してくる可能性もある。アメリカとしては「査察という手順を尽くした」という印象が出てくれば、また黒を示唆する証拠が揃えばフランス、ロシアも攻撃に参加しないまでも反対はしないだろうとの読みもあるだろう。

今朝ニューヨーク・タイムズやウォール・ストリート・ジャーナルなどが一斉に報道しているのは、アメリカによる新たな決議案提出の動きである。それによると、アメリカによる決議案提出は18日にも行われる予定で、イラクに新たな「課題」（英語では test となっている）を課すものになるという。ニューヨーク・タイムズは次のように報じている。

「The tasks would include allowing weapons inspectors to interview Iraqi scientists without government "minders" present, destroying missiles that were recently found to have greater range than the United Nations allows, and permitting unconditional overflights by American, European and Russian reconnaissance aircraft. Iraq has so far refused to go along with those steps.

"We are looking for some early benchmarks, specific things that the Iraqis will have to do to show full compliance," an administration official said. He said Hans Blix, a leader of the United Nations inspections team, agreed to setting such benchmarks soon when he met with Mr. Powell and others on Friday after the contentious session at the Security Council.

アメリカが新たにイラクに課す「課題」としては、

1. イラク政府の当局者 (minders) の同席なしに、査察官がイラクの科学者にインタビューする
2. 飛行距離が国連許容範囲を超えていると最近判断し、安保理に報告したミサイルの破棄
3. アメリカ、欧州それにロシアの偵察機による無条件上空飛行の許容

イラクはこれまでのところこうした要求を拒否してきた。アメリカの読みとしては、「イラクの拒否 国連安保理による違反認定 攻撃開始」という展開。これらの報道によると、アメリカは決議案を18日の安保理にも提出し、イラクの受諾・遵守監視期間を2週間と置いているようである。アメリカとしてはこのままの「査察継続」では意味がない、もっと具体的な課題を課そうと考えていると言える。ニューヨーク・タイムズによれば、ブリクス委員長もこうした「課題」の設定に関しては賛成しているという。

当面はこの新たな決議案提出が焦点になる。一方でフランスは査察官の数の増員などを求める意向と言われる(イラクは反対)。市場もこうした動きに目を凝らすことになりそうです。

このイラクとアメリカとのせめぎ合いを世界で一番興味を持って見ているのは北朝鮮だろう。イラクのあとにアメリカと対立する可能性が一番高い国だ。アメリカが最終的にはどういう態度を取るのか、国際世論がどう反応するのか北朝鮮はじっと見ているに違いない。アメリカはそれを知っているから、逆にイラクで安易な査察継続派との妥協は出来ない、という考えもある。

一方アメリカ国内に目を向けると、恐らく今回の一連の事態を「穏健派パウエルの敗北」と見る向きが出てこよう。当初から、イラクの問題を国連に持ち込むことに反対する勢力がアメリカにいた。「先制攻撃も可能」「必要なら単独で行動」という軍事ドクトリンを掲げる人々だ。

これに対して、「なるべく多くの国の支持を」と主張したのがパウエル国務長官などの穏健派である。ブッシュもその戦略に乗った。これは日本で2月25日に発売される「ブッシュの戦争」(原題 Bush at War で、日本経済新聞から)に詳しい。奇妙なことに、この路

線を唱えた同長官が14日の国連安全保障理事会では一番苦境に立たされ、ドビルパン仏外相へのスタンディング・オベーションを聞かされた。「われわれは友人だ。いずれ打開の糸口は見つかるし、友好関係はこれからも続く」と言っても、あの場においては負け組に分類された。

ブッシュ政権の中で、今回の国連安保理での一種の“孤立”をどう評価するか見方はかなり割れるだろう。パウエル自身は「新たな決議がなくても攻撃は可能」という考え方に傾いているが、イデオロギーとして常に「先制攻撃」「単独行動」を認めるかどうかはこれからの話だろう。

《 G-7 in the weekend 》

大西洋が割れているときには、通常世界の経済環境は良くない。1987年のブラック・マンデーも米独対立の最中に起きた。先週目立った市場の動きとしては、石油価格の持続的上昇、戦争が先延ばしになると判明したときのニューヨーク株式相場の大幅反発（金曜日）など。これに対して、日本の株価は一週間を通じて堅調に推移したと言える。これは、GDP統計などで日本経済の実態が予想より多少は良かったため。あと、世界的な資金の逃避先として、現在は安定の海とも言えるアジアが注目されていることもあるかもしれない。

しかし、経済状況より大きい政治的・軍事的環境が不透明の中では、今週の市場も「先行き不安感」が強いものになるだろう。週末パリで開かれるG7では、世界的な株価の下落傾向や、日本やドイツなど一部の国のデフレ、もしくはディス・インフレ傾向が話し合われることになるだろう。イラクという大きな地政学的リスクを抱え、各国の対応策の足並みが揃っていない中で「何かについての合意」を目指す会議と言うよりも、お互いの対策を披露しあい状況を検討する会合になるだろう。市場の期待もそれほど高くない。

やはり市場の関心は、「アメリカ経済の先行き」に集まるだろう。その点では、グリーンズパン FRB 議長が先週の議会証言で地政学的リスクを織り込んだ米経済の先行きをどう見ていたかが参考になる。

「The intensification of geopolitical risks makes discerning the economic path ahead especially difficult. If these uncertainties diminish considerably in the near term, we should be able to tell far better whether we are dealing with a business sector and an economy poised to grow more rapidly--our more probable expectation--or one that is still laboring under persisting strains and imbalances that have been misidentified as transitory. 」

「よりあり得るシナリオ」(more probable expectation)として、「今より成長率が高まる企業セクターと経済」を予想している。しかし、これは対イラクの戦争が短期間で終わった場合だろう。他の先進国からはアメリカ経済に対して、財政赤字の増大を懸念する声

が出るに違いない。いずれにせよ、今の世界経済で曇りなき晴天の国はなく、お互いの弱みをどう克服するか、需要をどう作り出すかの話になろう。

G7の前後から、日本経済の先行きにとっての一つの焦点として日銀の次期総裁人事がある。塩川財務相は先週末の会見で、「もう首相のところでは腹を決めていると思う。今、発表の時期をうかがっていると思う」と述べている。これに対して小泉首相は、「まだ決めてません」と。しかし、速水日銀総裁の任期切れは3月19日。接近している。財界からは富士通総研の福井さんを押す声が出ているが、小泉首相が誰を選ぶかは今のところ分からない、というのが本当のところだろう。

今週の主な予定は次の通りです。

| | |
|----------|---|
| 2月17日(月) | 2月日銀金融経済月報 経済財政諮問会議 米国市場はワシントン誕生日で休場 |
| 2月18日(火) | 12月景気動向指数改定値 日銀速水総裁定例会見 |
| 2月19日(水) | 米1月住宅着工件数 |
| 2月20日(木) | 米12月貿易収支 米1月卸売物価 米1月景気先行指数 米2月フィラデルフィア連銀景気指数 ECB理事会 |
| 2月21日(金) | 12月第3次産業活動指数 G7(～22日、パリ) 米1月消費者物価指数 米1月財政収支 |

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。東京は土曜日は素晴らしい快晴でしたが、日曜日は特に午後は冷たい雨、雪の一日。ちょっとまだ寒い感じの週末でした。といっても2月の中旬ですから、当たり前といえばそうですが。今週は週半ばまでは暖かいものの、週末は再び寒くなるようです。

新聞記事によれば「インフルエンザ」はピークを過ぎたそうですが、私の周りにはまだ風邪を引いている人が多い。お気を付け下さい。ところで、この週末にはこの「インフルエンザ」に関して一つ賢くなりました。というのは、「インフルエンザ」の語源です。ずっと前から「influence」(影響)と綴りが似ているな...とっていたのですが、なんと同

じ語源だと言うことが分かった。

インフルエンザ (Influenza) の語源はイタリア語。中世においてそれは惑星や、星の並びによる影響 (Influence)だと考えられていた。それで「影響」を意味するイタリア語の「influenza」(インフルエンツァ) が病名になったというのです。どうりで、綴りが似ている筈です。

インフルエンザは、風邪の一種で、今では良く知られているように病原体はウイルス。中世までは大きな死者が出てしまうこの大災害は星の運行による影響だと考えられていた。何百万人という人が死んだこともあったらしい。人間以外もかかる。一番インフルエンザの菌を運ぶのは、どうやら鳥らしい。

インフルエンザが終わると花粉というひともいるでしょう。万病の元は疲れです。疲れていると体に抵抗力がなくなってインフルエンザにもかかるし、今までかからなかった花粉症にもなる。皆様もお気を付けて。快眠快食です。

それでは、良い一週間をお過ごし下さい。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤 (E-mail ycaster@gol.com) が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》